

旭化成100周年

工都延岡の思い出

2

6/25

延岡市 伊達町 城戸 富義 (90)

私は1951(昭和26)年2月に20歳で旭化成薬品工場第4課調剤係に入社しました。味係に入社しました。うま味調味料の「旭味」を作る工場で、当時は働きました。

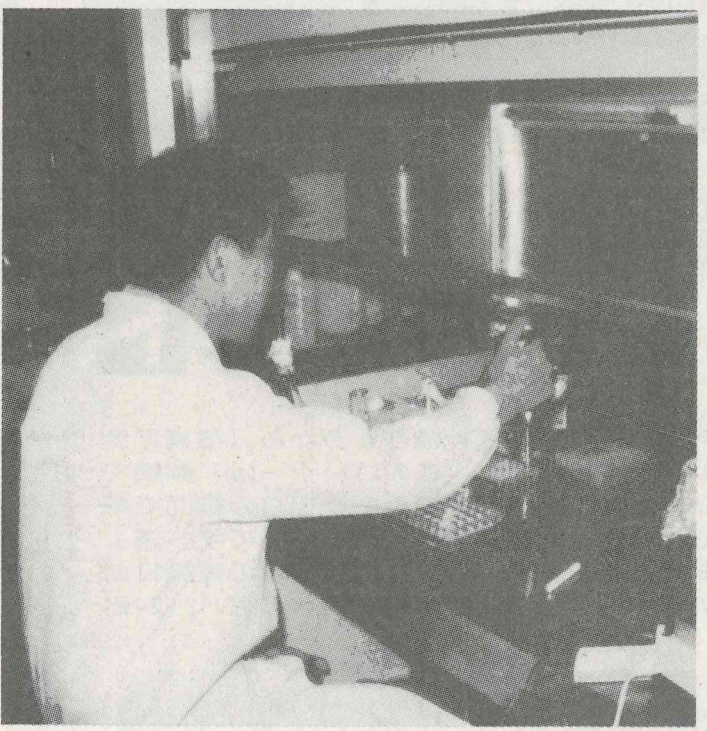


尺三ノ原、山崎、山崎、山崎

その後、旭味の製造は発酵法で行われるようになり、私は60(同35)年に食品研究課の種菌室に配属となりました。そこではフラスコやシリンドラなどそれぞれ見たこともない器具、化学記号に囲まれながら勉強の毎日。精神的な負担が大きかったことを覚えています。現在でも、ローマ字のタイピングで文章を書くことができているのは当時の勉強のおかげですね。

種菌室は3交代で、旭味を作る菌を培養し、顕微鏡を見て雑菌がないことを確認する仕事をしていました。その後、私は微生物を大量に培養できる装置シャーファーマンターを扱う「ジャ室」へと移り、いろいろな種類の菌の培養に取り組みながら、その過程で雑菌の繁殖の速さを1時間ごとに確認する作業を行っていました。雑菌が大繁殖する

静岡県富士市の研究所に派遣されていた頃の城戸さん



と作業は中止。その繰り返しでした。縁あって84(同59)年には、新しい医薬の研究のため静岡県富士市の技術研究所に6カ月間派遣され、楽しい思い出がたくさんできました。また年に1度の課対抗駅伝大会では、1カ月前から練習をして本番に臨んでいました。当時はまだ車が少なく、交通規制などもなかったように思います。

ては、運動会や駅伝大会があります。薬品工場は10月5日が創立記念日で、毎年大運動会が行われ、応援団の練習をするなど大変にぎやかでした。

また年に1度の課対抗駅伝大会では、1カ月前から練習をして本番に臨んでいました。当時はまだ車が少なく、交通規制などもなかったように思います。

旭味は、各工場を訪ねるコース。薬品、雷管、プラスチック、ペンベルグ、レイヨン、無鹿6区の中継所、火薬工場を折り返し、薬品工場がゴールでした。旭陽会の選手らも参加する中、区間賞を5、6回いただいたこともあり、トロフィーは今でも棚に飾っています。

「旭味」澱粉係、種菌室などに勤務

薬品工場の創立記念日に大運動会